

公益財団法人こころのバリアフリー研究会

Newsletter No.14

2021.12.1

会員みなさまへ

(財)こころのバリアフリー研究会 理事長

秋山 剛

今回のニュースレターでは、まず、韓国大同病院 院長の朴相運先生に、新入会員としてご挨拶をいただいています。朴先生は、日本語がお上手で、日本と韓国のこころのバリアフリーの架け橋になってくださると思います。第5回のこころのバリアフリー賞受賞者の加藤さんはご自分の人生を100%ポジティブな方向に転換された方で、私は一緒に本も出しています。「こころの健康ネットワーク大東」は、1997年から素晴らしい地域活動を続けられています。第6回の受賞者の風間さんは、ご自分の体験を元に、現在は政府のこども庁に関する政策にも提言をされています。ノーチラス会は、長年にわたって、多くの双極性障害に苦しむ方々がお互いを助け合っている団体で、鈴木さんは医師として、その活動を陰に陽に支えてられています。



こころのバリアフリー活動は、一夜にしてなるものではなく、うまずたゆまずに続ける歩みの中で、結実していくものだと思います。ニュースレターは、そういう、みなさまの想いを情報交換していただく場です。他の方の「想い」を聞いて、みなさまの「想い」を、また新たにしていいただければと考えます。

目次	1 頁	理事長からの挨拶
	2～4 頁	新入会員
		朴 相運 (韓国大同病院 院長)
		第5回こころのバリアフリー賞受賞者
		加藤 伸輔
		米尾 依子 (こころの健康ネットワーク大東)
		第6回こころのバリアフリー賞受賞者
		風間 暁
		鈴木 映二 (ノーチラス会 理事長)

朴相運（韓国大同病院 院長）

今までもたくさんのバリアがある現実の中でバリアフリー研究会に入会出来て嬉しいです。

私は 250 病床の単科精神科病院と社会福祉法人を運営しています。短期入院と社会復帰を目指して努力しましたが、なかなか難しい事がたくさんあります。一番難しいところは、住居と職業リハビリと思います。周りで長期入院がほとんどですし、医療報酬もそれが楽になる現実の中で、短期入院の為、忙しい当院のスタッフ達を見る事も大変です。

でも慢性統合失調症の患者さんがグループホームで生き生き過ごす笑顔を見る事、働く患者さんの安定して我慢する姿は、私達のやり甲斐です。

私がまだまだ知らない人間の素晴らしいさはたくさんある、特に精神障害者はもちろんの事と思います。この研究会でこんな事をたくさん感じたいです。どうぞよろしくお願い致します。



加藤伸輔

アンパンマンのぬいぐるみと遊ぶ2歳の娘の隣でこれを書いています。症状が悪化し生活保護を受けながら暗い部屋に閉じこもっていた10年前、今の自分の姿なんて想像もつきませんでした。

双極性障害とのつき合い方の模索、ピアサポートグループ在、WRAP、リカバリー全国フォーラム…。希望を積み重ねていく時間のなかで出会えた温かい人たちのおかげで今の自分があります。心から感謝しています。

決して右肩上がりです。今の自分にたどり着けたわけではありません。今も、再び大きく調子を崩したらどうしよう、精神疾患のある私が原因で娘が辛い思いをしたらどうしようなど、いろんな不安を抱えています。しかし、病気という弱みを強みと捉え、妻や仲間を支えてもらいながら、不安を価値に変えていきたいです。今までの自分の人生経験が誰かの糧になればという思いを込めて、これからも活動していきます。娘に「自慢のお父ちゃん」と思ってもらえる存在でありたいです。



米尾依子（こころの健康ネットワーク大東）

こんにちは。「こころの健康ネットワーク大東」です。私たちは、1997年大阪府大東市で活動する市民の会が呼びかけ人となり、地域の精神保健福祉にかかわる団体が集り、会を結成しました。年に1回市民に向けた啓発イベントをこれまで24回開催しました。人口12万人の町で続けてきた地域活動が認められて素晴らしい賞を頂戴し、とても励みになりました。感謝申し上げます。精神障害者の生の声を届けることを大切にし、参加者と精神障害のある方がひとつの場を共有し、出会い、ふれあい、理解し合える場となるような企画を考えています。失敗もする、弱さもある自分の存在を受け入れてくれる安心感や仲間を求めるのは、障害のあるなしに関係ありません。多様な生き方を認められる関係が障害者といわれる世界で実践されています。「それは誰もが生きやすい社会ですよ。お仲間になりませんか。」という気持ちでお誘いしています。コロナ禍のこのような状況だからこそ、声を届ける、声を聴く、広げる、つながることを様々な形で届けていきたいと思っています。



こころのバリアフリー賞を受賞して

風間 暁

私は薬物依存症から回復した保護司として、あるいは NPO 法人 ASK の社会対策部 薬物担当者として、当事者の回復に向けた環境づくり・社会の誤解と偏見を是正するためのソーシャルアクションや講演、イベント登壇など、幅広い活動機会をいただいております。



被虐待児だった私は、親から存在そのものを否定されて育ってまいりました。物心がついてからも、おかしいと思ったことには決して従わない姿勢、全体主義的な価値観に反抗する行動などを社会から疎まれ、私は大人たちを信用することができなまま育ちます。

大人は裏切るけれど、薬物は自分の期待した通りの効果を与えてくれるので、私は薬物だけを信じ、薬物に頼り、薬物で自分の傷ついた心を癒すようになりました。すると、ますます周囲から裁かれるのが当たり前となっていき、たった独りで泥臭く、秩序の外側で生きてきたのです。

そんな私ですから、「こころのバリアフリー賞」という荣誉ある賞はもちろん、他者から肯定的な評価を頂戴するという経験自体が生まれてはじめてのことでした。

こころのバリアフリー研究会の皆さまは、私が生育歴から育まれることのなかった自信を、受賞という形で贈ってくださいましたのです。この経験は、これから先の私を生涯、支え続けてくれることでしょう。

今後も皆さまのご期待に添えますよう、なお一層の努力を重ねてまいります所存です。何卒、倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

鈴木映二（ノーチラス会 理事長）

ノーチラス会は双極性障がいの当事者会で、正式名を NPO 法人日本双極性障害団体連合会 (<http://bipolar-disorder.or.jp/>) といいます。私たちは、人同士のつながりを大切にしているために、北は盛岡から南は鹿児島まで全国 20 の支部を持ち、各地におけるミーティング活動（一部では家族会も開催）を中心に活動しています。その他に、月刊誌の発行、ボランティアの専門職とピアカウンセラー等による無料電話相談、一般の人たちも対象とした講演会および研修会などの活動も行っています。当事者会の良さである経験知識を最重要視しながらも、多くの精神科医に顧問として参加していただくことで、情報の確かさを確保しています。現在、会員の当事者が、日本うつ病学会の双極性障害治療ガイドラインおよび日本精神神経学会の「精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイドライン」作成に携わっており、当事者の生の声を専門家に届けていく活動もしています。

